

学報

2015. July

vol. 53

特集

Special Feature

70周年記念式典

「未来への飛躍」基金創設

平成26年度決算

新入生挨拶



奈良県立医科大学開学70周年記念式典

Contents

特集	奈良県立医科大学開学70周年記念式典を挙りました	3
	奈良医大「未来への飛躍」基金を創設しました	4
	平成26年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	5
	平成27年度 新入生挨拶	6
	大学院入試日程	6
図書館だより	検索マスターへの道（第3回）	7
産学官連携だより	医療研究の司令塔が誕生しました	8
	特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)をご活用下さい	8
新しい寄附講座を 開設しました	血友病治療・病態解析学講座／手の外科講座	8
クラブ紹介	軟式テニス部／アンサンブル部	9
Campus News	病院前での挨拶運動をはじめました	10
	新入生オリエンテーションを行いました	10
	奈良県とスイス連邦ベルン州との友好交流分野会議で 車谷副学長がプレゼンテーションを実施	10
	倫理指針の改正と医療倫理講習会の開催	11
	ネパール大地震における国際緊急援助隊医療チームでの派遣経験	11
	IMAICHO Kimono Jazzgl IN 2015が開催されました	11
	第111回日本精神神経学会学術総会 市民公開講座 「しなやかな心の世界をかたる」を開催しました	12
	大学院看護学研究科のオープンキャンパス2015を開催しました	12
	第38回まほろばPEACE緩和ケア研修会を開催して	12
	納品検収センターを設置しました	13
Information	オープンキャンパス2015を開催します	13
	メディア掲載情報	13
Winner Report	平成27年度 厳櫃学術奨励賞の表彰式が行われました	14
	第22回 中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	14
	第4回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞が授与されました	14
	平成27年度（第1回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	14
	叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～	15
	看護功労者知事表彰	15
	特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	15
	平成27年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	16
Information	編集後記・広告	20

奈良県立医科大学開学70周年記念式典を挙行了しました

平成 27 年 5 月 23 日(土) 橿原ロイヤルホテルで奈良県立医科大学開学 70 周年記念式典を挙行了しました。

1. 記念式典

(15:30 ~ 16:20 「畝傍」の間)

- 開会
- 開会挨拶 細井 理事長・学長
- 経過報告 車谷 理事
- 知事祝辞 渡辺 医療政策部長(代理)
- 来賓祝辞 中村 奈良県議会議長
森下 橿原市長
清原 公立大学協会長
塩見 奈良県医師会長
小味洸 医学科同窓会長
植村 看護学科同窓会長

- 来賓紹介

- 閉会の辞 林 副理事長

式典には、県内自治体、県議会、関係大学・医療機関・企業の方々や、本学同窓生、退職教職員及び現職教職員等、約 250 人が出席しました。

開会に当たり、細井裕司理事長・学長が、「開学 70 周年を機に、教育、研究、診療、地域貢献等、医大を取り巻くあらゆる分野での改革に挑戦し、本学の新たな飛躍を目指す」との強い決意を述べました。

次いで、車谷典男理事(医学部長)が、この 10 年間の本学の歩みを報告しました。

その後、渡辺顕一郎奈良県医療政策部長から知事祝辞を、中村昭奈良県議会議長、森下豊橿原市長、清原正義公立大学協会長、塩見俊次奈良県医師会長、小味洸智雄本学医学科同窓会長及び植村信子本学看護学科同窓会長からそれぞれご祝辞を賜りました。

最後に、林洋副理事長が閉会の挨拶を行いました。



2. 記念講演 (16:30 ~ 17:30 「畝傍」の間)

- 開会
- 講演者紹介 古家 理事
- 記念講演
「iPS 細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」
京都大学 iPS 細胞研究所 所長・教授 山中 伸弥 氏
- 謝辞 細井 理事長・学長
細井裕司理事長・学長と古家仁理事(附属病院長)が座長となり、山中伸弥京都大学 iPS 細胞研究所所長・教授を講師にお迎えし、iPS 細胞が移植治療だけでなく難病治療薬の開発にも重要な役割を果たし始めている等「iPS 細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」について、ご講演いただきました。



3. 祝賀会 (17:40 ~ 19:15 「耳成」の間)

- 開会
- 開会挨拶 細井 理事長・学長
- 来賓祝辞 今川 奈良県病院協会長
吉川 京都府立医科大学長
- 乾杯 吉岡 前理事長・学長
- 歓談
- 学歌披露
- 閉会の辞 山下 理事

今川敦史奈良県病院協会会長、吉川敏一京都府立医科大学長からご祝辞を賜った後、吉岡章前理事長・学長の発声のもと、参加者一同で本学の更なる発展を期し乾杯しました。

最後に、永井和子大阪音楽大学名誉教授により編曲いただいた「奈良医大学歌」を、本学ラグビー部員と参加者で合唱し、山下昌宏理事(事務局長)が閉会の挨拶を述べ、一連の式典を終了しました。



奈良医大「未来への飛躍」基金を創設しました

理事長・学長 細井 裕司

本学は、今年で創立 70 周年を迎え、去る 5 月 23 日には記念式典を盛大に執り行いました。

皆様ご案内のとおり、本学はこの大きな節目に、南西約 1km にある県農業研究開発センター跡地を新たなキャンパス用地として、教育・研究部門を全面移転し、移転後の現キャンパスでは新外来棟など診療施設の更なる充実を図ることとしています。

私は、これを単なる「器」の整備ではなく、本学が未来に向けて新たな飛躍を遂げる好機にしたいと考えています。日進月歩で進化する医学・看護学の世界で、本学がこれまで以上にその役割を確実に果たしていくためには、ここ橿原の地にあっても、常に全国、世界の水準を視野に入れつつ、最先端、最高水準の大学・附属病院を目指すとともに、全人的に優れた「良き医療人」を育成していくことが必要であり、そのことによって優れた人材が本学に集積して、質・量ともに秀でた大学・附属病院が実現するものと確信しています。

このような「未来への飛躍」を確かなものにするため、今般、本学の教育・研究・診療の更なる充実を支援するための恒久的な基金「未来への飛躍基金」を創設し、ハード・ソフト両面にわたるサポート体制を整えることといたしました。

基金の具体的な事業計画としては、平成 33 年予定の新キャンパスオープンにあわせて、「(仮称)奈良県立医科大学交流会館」を建設することとしています。同会館には、卒業生と在学生・教職員の絆を深める学友会館機能のほか、産業界や地域医療機関等との交流機能を備えることにより、本学の教育・研究機能の更なる向上に寄与することを目論んでおり、その財源として、当面 10 億円の基金造成を目指しています。

本学の「未来への飛躍」は、奈良県立医科大学が将来にわたり存立し、構成員が構成員であり続けるための死活的命題であります。皆様におかれましては、この趣旨にご理解をいただき、一丸となつてのご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

基金の仕組み、寄附の方法など、具体的な内容については、基金 HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) で紹介しています。法人宛の寄附のほか、本学・奈良県を「心のふるさと」と想い、相応の協力をお考えの方には、実質 2,000 円で多額の寄附が可能となる『ふるさと納税制度』による寄附方法もあり、詳しく紹介していますので、ぜひご参照ください。



「未来への飛躍」基金パンフレット



交流会館のイメージ



同窓会事務室イメージ



交流スペースイメージ



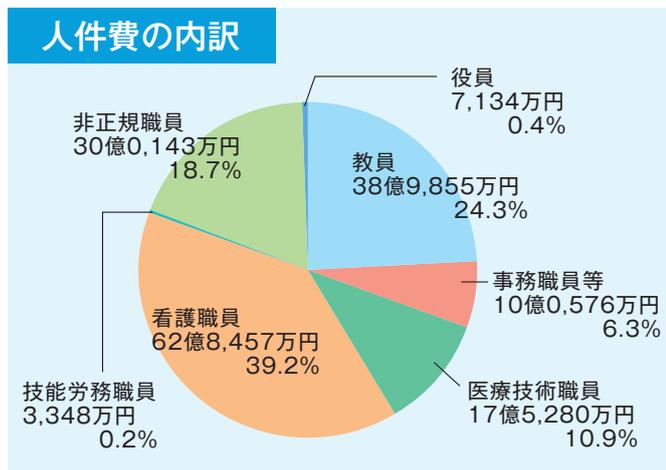
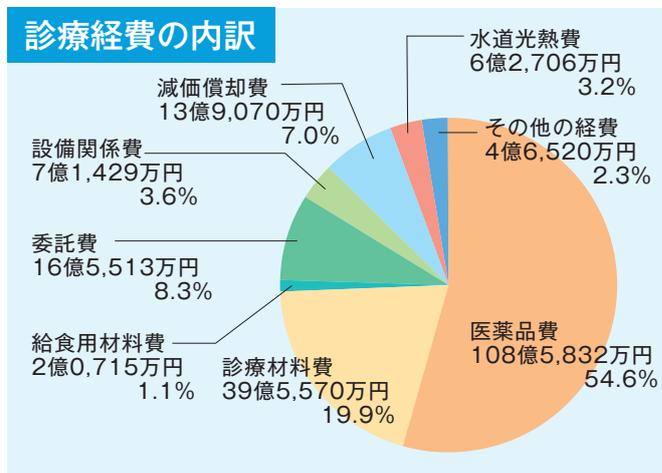
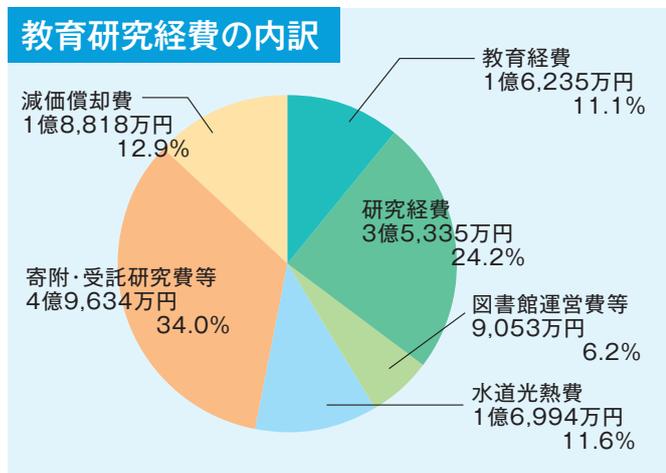
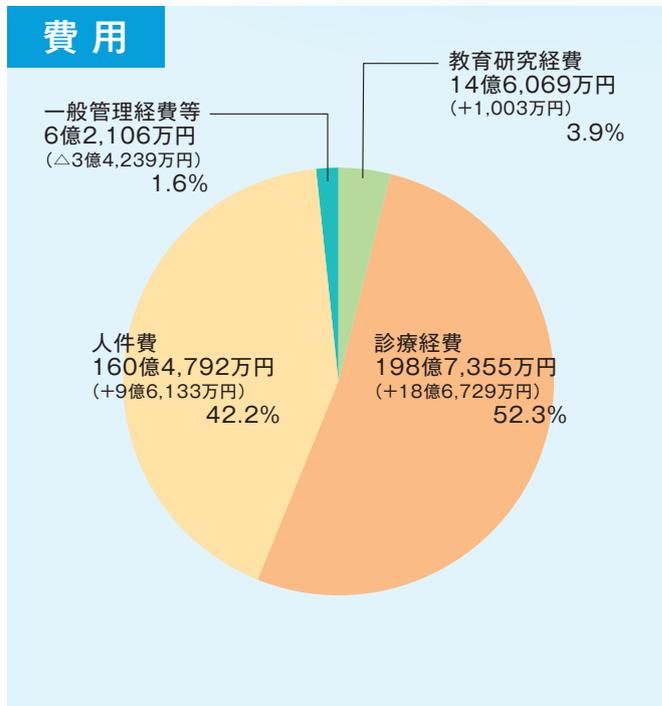
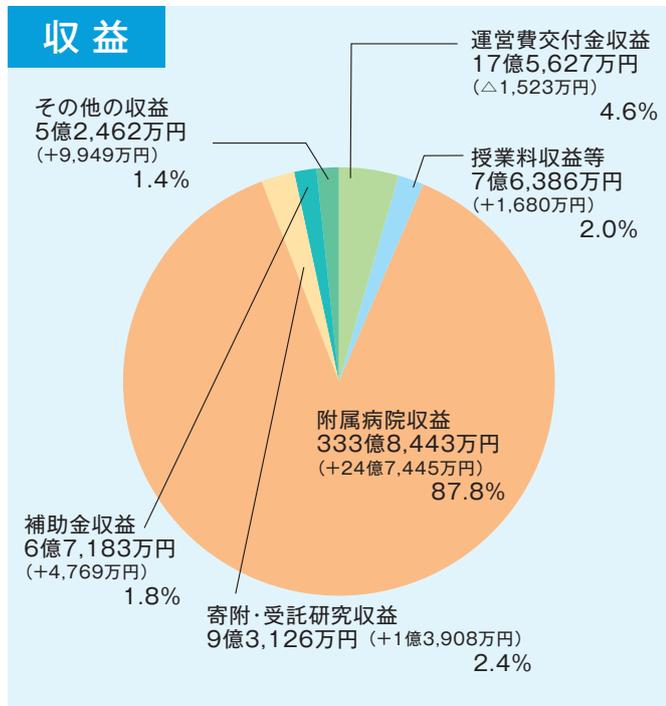
ホールイメージ

平成 26 年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

平成 26 年度決算 【収益】 380 億 3,227 万円 (+ 27 億 6,227 万円) 【費用】 380 億 0,322 万円 (+ 24 億 9,627 万円)

差引 2,905 万円の黒字 (H25 / 2 億 3,694 万円の赤字)

※ () 内は前年との増減額



平成 26 年度は病院収入の大幅増などにより黒字決算となり、法人化以降の累積赤字は 10 億 4,871 万円となりました。

第 2 期中期計画ではこの累積赤字の解消が目標となる一方で、附属病院新棟建設や医療機器整備等により費用負担の増加が見込まれますので、皆さんには経費節減など目標達成に向けた取り組みへ引き続きご協力をよろしくお願い致します。

平成27年度 新入生挨拶

医学科

小倉 黎 (おぐら れい)

今春、晴れて奈良医大に入学でき、大変嬉しく思います。

新たな環境への不安と期待を胸に臨んだ入学式から、あっという間に時は流れ、早数か月が経ち、すっかり大学生活にも慣れ、頼りになる先輩、友人にも恵まれ、勉強に部活動に忙しくも毎日、充実した日々を過ごしています。

私たちは奈良医大の学生であるという自覚と誇りを胸に、互いに切磋琢磨しあって成長し、豊かな人間性を持った医療人になれるよう努力していく所存ですので、先生方、先輩方、温かい目で見守り、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



看護学科

加藤 茜 (かとう あかね)

やわらかな風が吹き、太陽の光が満ち溢れ、生命が生き生きと活動を始める春、私たち85名は奈良県立医科大学に入学しました。入学式から3か月がたち、ようやく大学生活にも慣れてきた今日。課題や部活動、アルバイトなどいろいろなことに追われ忙しくも充実した日々を送っています。一人一人が目指す最終地点は少しずつ異なりますが、「医療従事者になる」という大きな夢を胸に日々努力し、お互いに切磋琢磨してまいりますので、先生方および先輩方、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



大学院入試日程

平成27年度 秋入学

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻 生体情報・病態制御医学専攻 生体分子・機能再建医学専攻	若干名	平成27年7月24日（金）まで	平成27年8月10日（月）	平成27年9月8日（火）

- 社会人の入学も可能です。
- 社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

平成28年度

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7	第一次募集： 平成27年10月19日（月）～10月23日（金）	第一次募集： 平成27年11月9日（月）	第一次募集： 平成27年12月8日（火）
生体情報・病態制御医学専攻	13	第二次募集： 平成28年1月12日（火）～1月15日（金）	第二次募集： 平成28年2月1日（月）	第二次募集： 平成28年3月8日（火）
生体分子・機能再建医学専攻	20			

- 社会人の入学も可能です。
- 社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。
- 平成28年度秋入学の実施については未定です。

大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医 科 学 専 攻	5	第一次募集： 平成27年8月31日（月）～9月4日（金） 第二次募集： 平成28年1月25日（月）～1月29日（金）	第一次募集： 平成27年9月24日（木） 第二次募集： 平成28年2月8日（月）	第一次募集： 平成27年10月13日（火） 第二次募集： 平成28年3月8日（火）

- 社会人の入学も可能です。
但し、平成28年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

大学院看護学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学コース専攻	5	第一次募集： 平成27年7月27日（月）～7月30日（木） 第二次募集： 平成27年10月27日（火）～10月30日（金）	第一次募集： 平成27年8月20日（木） 第二次募集： 平成27年12月1日（火）	第一次募集： 平成27年9月2日（水） 第二次募集： 平成27年12月8日（火）
助産学実践コース専攻	5			

- 社会人の入学も可能です。
- 社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。
但し、平成28年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
- 助産学実践コースについては、就学中は学業に専念できるとします。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

検索マスターへの道 (第3回)

検索テーマ	直腸診は前立腺癌の診断に有用か？
出典	前立腺癌診療ガイドライン 2012 年版 4. 診断 CQ1
検索日	2015 年 6 月 23 日

ある疑問に対し、医学情報データベースでどのように検索するかを解説するシリーズ、今回は前立腺癌診療ガイドラインからテーマを選びました。診療ガイドラインは「疫学」、「診断」、「治療」、「予防」などのカテゴリごとに CQ (クリニカルクエスション；臨床上の疑問) が立てられており、今回は「診断」の中の CQ 「直腸診は前立腺癌の診断に有用か？」を選びました。この CQ の目的は、前立腺癌検診や泌尿器科外来において PSA 検査とともに直腸診が行われることが多いため、直腸診が前立腺癌の診断に有用であるか検証することです。まずは検索テーマから思い当たる「prostate cancer」、「digital rectal examination : DRE」、「diagnosis」で検索してみます。検索には PubMed を使います。(表 1)

(表 1)

#1	Search prostate cancer	127765
#2	Search digital rectal examination	3845
#3	Search diagnosis	8858918
#4	Search #1 AND #2 AND #3	2530

3つを掛け合わせると 2530 件とかなり件数が多くなりました。検索語から自動生成された検索式を確認すると、それぞれに MeSH が付与されていることがわかります。(表 2)

(表 2)

	検索語	自動生成された検索式
#1	prostate cancer	"prostatic neoplasms"[MeSH Terms] OR ("prostatic"[All Fields] AND "neoplasms"[All Fields]) OR "prostatic neoplasms"[All Fields] OR ("prostate"[All Fields] AND "cancer"[All Fields]) OR "prostate cancer"[All Fields]
#2	digital rectal examination	"digital rectal examination"[MeSH Terms] OR ("digital"[All Fields] AND "rectal"[All Fields] AND "examination"[All Fields]) OR "digital rectal examination"[All Fields]
#3	diagnosis	"diagnosis"[Subheading] OR "diagnosis"[All Fields] OR "diagnosis"[MeSH Terms]

そこで MeSH に限定した検索をしてみます。まず、「prostate cancer」を MeSH Database で確認するとサブヘディングの候補が出てきますので、ここでは「診断」のサブヘディング「diagnosis」にチェックを入れ、メジャーピックに限定して検索します。次に「digital rectal examination」も MeSH に限定します。#3 の「diagnosis」は「prostate cancer」にサブヘディングで「diagnosis」を付与しているため除きます。(表 3)

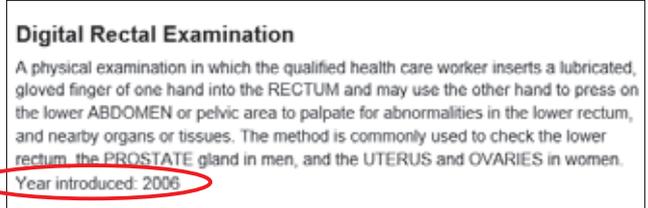
(表 3)

#1	Search "Prostatic Neoplasms/diagnosis"[Majr]	27727
#2	Search "Digital Rectal Examination"[Mesh]	619
#3	Search #1 AND #2	402

402 件になりました。最初の 2530 件から比べるとずいぶん少なくなりました。しかし、ちょっと少なくなりすぎている感があり

ます。特に 2 つ目の「digital rectal examination」は自然語で検索した時の 1/6 ほどです。こういうときは、MeSH をよく確認する必要があります。「digital rectal examination」をもう一度 MeSH Database で確認します。(図 1)

(図 1)



説明文の最後 Year introduced は MeSH に登録された年、つまりこの MeSH 用語は 2006 年以降に付与が始まった比較的新しい MeSH 用語ということがわかりました。このため MeSH で検索するとヒット数が少なくなったというわけです。このように MeSH 用語が比較的新しい場合は古い文献が検索から漏れてしまうことがあるため、この MeSH 用語が付与される前の文献については、タイトル中に「digital rectal examination」または「DRE」を含むものを検索します。キーワードがタイトルに出てくる文献に限定して検索するときは [TI] というタグをつけます。また、タイトル中にこれらのキーワードを含むものを 2006 年以前のものに限定するため、Filter を使います。Filter は検索結果の左側に表示されます。Publication dates の Custom range... をクリックすると、出版年の範囲を指定する画面が表示されるので、2006 年までと入力します。(図 2)

(図 2)



2006 年以降に付与が始まった MeSH 用語と 2006 年以前にタイトル中にキーワードを含むものを OR でまとめれば、どちらかを含むものが検索でき、漏れは少なくなります。ある程度検索したら、検索結果の左側に出てくる Filter で Species を Human、Language を English, Japanese にチェックを入れておくと、人間を対象とし、日本語か英語で書かれた論文に絞り込むことができます。(表 4)

(表 4)

#1	Search "Prostatic Neoplasms/diagnosis"[Majr]	27727
#2	Search "Digital Rectal Examination"[MeSH]	619
#3	Search "Digital Rectal Examination"[TI] OR "DRE"[TI] Filters: Publication date to 2006/12/31	293
#4	Search #2 OR #3	890
#5	Search #1 AND #4	489
#6	Search #5 Filters: Humans, English, Japanese	451

500 件以下に絞り込むことができました。がん関連の文献は特に件数が多いので、絞り込み方が一つのポイントとなります。色々な検索を試し、必要な文献が漏れてないかを確認しながら検索の精度を上げることが大切です。

今回は件数が多くて大変なお題でした。「疫学」、「診断」と来ましたので、次は「治療」や「予防」のお題にチャレンジしたいと思います。みなさんからのお題のリクエストもお待ちしています。

医療研究の司令塔が誕生しました

平成 27 年 4 月 1 日より、国の新たな機関として「国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)」が発足しました。米国の国立衛生研究所 (NIH) を参考に、日本の医療研究の司令塔を担う「日本版 NIH」として設立されたものです。

AMED は、医療分野の研究開発における基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進・成果の円滑な実用化及び医療分野の研究開発のための環境の整備を総合的かつ効果的に行うため、医療分

野の研究開発及びその環境の整備の実施や助成などを行います。

AMED は内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の 4 府省により所管され、補助金・交付金の交付は 3 省による予算を集約化したかたちで実施されます。

医療分野の課題については、各省庁から AMED に集約された事業と、引き続き各省庁が実施していく事業がありますので、研究者の皆様はご注意ください。

特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) をご活用下さい

平成 27 年 3 月 23 日より、独立行政法人 工業所有権情報・研修館 (INPIT) より、新たな特許情報検索システム「特許情報プラットフォーム (略称: J-PlatPat)」がスタートしています [旧システムの特許情報図書館 (IPDL) のサービスは終了しました]。

インターネットを通じて、「ぶらっと」寄って、情報を「ぱっと」、無料で特許情報を検索できます。

J-PlatPat では、明治以来、特許庁が発行してきた特許・実用新案、意匠、商標の公報類と関連情報が見られます。また、外部

サービス [J-GLOBAL (科学技術総合リンクセンター) (<http://jglobal.jst.go.jp/>)] との連携により、非特許文献の一括検索が可能になるなど、旧システムと比較して、ユーザーが求める特許情報をより効率的に検索できるようになりました。

J-PlatPat の URL は、<https://www.j-platpat.inpit.go.jp> です。マニュアルもダウンロード可能ですので、皆様も一度、ご自身の研究テーマ等、興味のあることを検索してみてください!

新しい寄附講座を開設しました

本学では、「住居医学講座 (平成 18 年度開設)」、「血栓制御医学講座 (平成 21 年度開設)」、「血圧制御学講座 (平成 22 年度開設)」、「人工関節・骨軟骨再生医学講座 (平成 23 年度開設)」、「スポーツ医学講座 (平成 25 年度開設)」に次いで、新しく「血友病治療・病態解析学講座 (平成 27 年 4 月開設)」、「手の外科講座 (平成 27 年 7 月開設)」の寄附講座を開設しました。

「血友病治療・病態解析学講座」

◆寄附講座「血友病治療・病態解析学講座」の概要

- 研究領域: 血友病治療及び病態解析
- 寄附講座教員: 教授 (寄附講座) 嶋 緑倫
(奈良県立医科大学 小児科学 教授 兼務)
助教 (寄附講座) 松本 智子 (採用)
- 講座開設期間: 平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 (3 年間)
- 寄附者: バクスアルタ株式会社
(東京都港区虎ノ門 1 丁目 23 番 1 号 虎ノ門ヒルズ森タワー 20 階)
- 寄附総額: 3 千万円 (3 年間)

◆寄附講座で今後取り組む研究内容

奈良県立医科大学には血友病を初めとする血液凝固異常症に関する世界的な研究実績があります。これらを基に血友病や他の凝固異常症の診断、モニタリングおよび治療の標準化や最適化をめざして基礎、臨床研究を強化します。さらに、患者さんの評価システムや院内外の医療従事者を対象とした教育システムの開発に関する研究も実施して血友病治療ケアセンターとしての基盤の構築をめざします。



松本助教

「手の外科講座」

◆寄附講座「手の外科講座」の概要

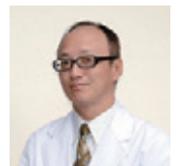
- 研究領域: 手及び上肢に生じる疾患の病因や病態を解明し、手外科に関する最新の治療法を開発し臨床応用すること。
- 寄附講座教員: 教授 (寄附講座) 面川 庄平
(前 奈良県立医科大学 整形外科 准教授)
- 講座開設期間: 平成 27 年 7 月 1 日～平成 31 年 6 月 30 日 (4 年間)
- 寄附者: 社会医療法人 医真会
(大阪府八尾市沼 1 丁目 41 番地)
- 寄附総額: 6 千万円 (4 年間)

◆寄附講座で今後取り組む研究内容

手の外科の中でも特に診断が困難とされる手関節尺側痛の病態解明と、関節鏡を用いた新しい低侵襲手術の開発、及び新しい治療法を理論的に支持する生体力学的研究を行います。

また、超音波を用いた運動器疾患の診断と治療に関して、超音波画像を三次元的に計測する手法を確立することにより、整形外科領域の上肢軟部組織疾患の病態の解明を行います。さらに、現在まで開発してきた新しい皮弁や再建法を究明し、整容的にも機能的にも正常に近い上肢再建を目指した解剖学的研究を進めていきます。

再生医療と最少侵襲手術の融合として、本学の Cell Processing Center における再生医療技術を利用した細胞治療を今後上肢疾患 (難治性偽関節や骨壊死) にも積極的に取り組んでいきます。



面川教授

切磋琢磨

奈良医大軟式テニス部は男子 27 名、女子 20 名の計 47 名で、大人気で楽しく日々練習に励んでいます。部員は運動系の部活に所属したことがない人たちや初心者の人たちがほとんどで、基本的なフォームや試合のルール等を 1 から先輩が教えてくれるので、運動経験のない人や軟式テニス初心者という人でも大歓迎です。

初心者だからといって結果が残せないなんてことはありません。西日本医科学生総合大会（西医体）では男子は一昨年ベスト 4、女子は昨年準優勝しています。また大会では必ず個人戦があるので、レギュラーメンバーだけでなくそれ以外の部員全員が大会で試合を行えるのも軟式テニス部の特徴の 1 つです。

軟式テニス部は部員数がとても多いのでとてもにぎやかな部活です。週に 2 回のご飯会や休日には BBQ やスポッチャ、夏には合宿といったようにいろいろなイベントがあり、学年や男女関係なく非常に仲がいいことが軟式テニス部の自慢です。また他大学の同学年や先輩、後輩と交流する機会もたくさんあります。もし少しでも軟式テニス部に興味がありましたら、ぜひテニスコートまでおこしてください。



軟式テニス部

部員 ▶ 47名
顧問 ▶ 伊藤利洋(免疫学教授)
主将 ▶ 大島圭裕(医学科4年)
練習日 ▶ 月、水、金/土

Let's アンサン

奈良医大アンサンブル部は医学科 3 名、看護科 1 名の計 4 名と他大学の学生で、大学の教養教育校舎で日々練習に励んでいます。楽器を弾くのは一見ハードルが高いように思えますが、部員のほぼ全員が初心者からはじめており、弦楽器であればクラブで数台保有しておりますので気軽に始められます。

年間の行事として年二回の橿原文化会館での定期演奏会と幼稚園での演奏会、そして部内での発表会を行っております。今年も 12 月 13 日に橿原文化会館で定期演奏会をおこないますので是非お越しください。

アンサンブル部は部員数が少ないので、部員同士の仲が良くアットホームなクラブです。練習も各自が自分のできる範囲でがんばっています。練習のほかにも BBQ や USJ そして夏休みには合宿があります。また演奏会をおこなうには人数が足りない所以他大学やプロの方にエキストラとして演奏を支援いただいております、学外との交流もあります。クラブ活動を通して学生時代の思い出を増やしましょう。興味があれば是非練習を覗きにきてください。



アンサンブル部

部員 ▶ 4名
顧問 ▶ 斎藤能彦(第一内科教授)
主将 ▶ 藤田博之(医学科4年)
練習日 ▶ 月、水

病院前での挨拶運動をはじめました

4/1 ~

本学では平成26年4月から障害者雇用に取り組んできました。当初は5名を採用し、平成27年4月には20名となっています。

医大で働く障害者が増えたことを機会に「朝のあいさつ運動」を始めました。病院の玄関前で出勤する教職員、来院する患者さん等に声かけをしています。

この運動は、障害者雇用の職員たちが医大に馴染むことと、教職員・患者さん等に彼らのことを知ってもらうことを目的に始めました。

知的や精神の障害者は人との関わりが得意でないのが特性です。一方、何事にも実直なことが特性で、「朝のあいさつ運動」にも一生懸命に取り組んでいます。

「朝のあいさつ運動」やこれまでの誠実な働きぶりが評価され、学内において障害者雇用の認知も進み、受け入れ職場が増えました。障害者雇用の皆さんには、医大の一員であること意識が芽生えてきています。

識が芽生えてきています。

障害者雇用を定着することは時間のかかることです。障害者に対する理解を深めていただき、障害者雇用への支援をお願いします。



新入生オリエンテーションを行いました

4/6~4/10

医学科では、113名の新入生を対象に、4月6日・7日に入学前オリエンテーション、4月8日に入学式および入学後オリエンテーション、また翌日4月9日から4月10日にかけて、宇陀市の「美穂苑」で1泊2日の課外研修を行いました。課外研修では、新6年生5名及び本学を卒業された4名の研修医の先生にもご参加いただき、医師としての生活や学生時代の思い出についてインタビュー形式でお話をうかがいました。5日間のオリエンテーションで、先生や先輩方からの貴重な話を聞くことで、本学医学生になった喜びと責任を再認識するとともに、新入生同士は、他己紹介という形で交流を深めることで友達づくりに役立つ様子うかがえました。

看護学科では、85名の新入生を対象に、4月6日・7日に入学式前オリエンテーション、4月8日から9日にかけて入学式および先生方による講話、授業や学生生活に関するガイダンスを行いました。ガイダンス終

了後、奈良市の「ボスコヴィラ」で1泊2日の課外研修を行いました。課外研修では、教員による各領域の紹介、4年生4名による学生会主催の交流会が行われました。翌日には「将来、医療従事者になるにあたって」というテーマで、自分たちの考えをグループワークでまとめて発表しました。

医学科看護学科とも、新入生同士そして先輩との交流も深まり、新しい生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないかと思います。



奈良県とスイス連邦ベルン州との友好交流分野会議で車谷副学長がプレゼンテーションを実施

4/17

かねてから奈良県が交流を重ねていたスイス・ベルン州から州首相一行が来県し、友好提携締結に関する協定書署名式が4月17日(金)に開催されました。

当日は署名式に先立って友好交流分野会議が開催され、友好交流事業について意見交換が行われました。本学からは車谷副学長が出席し、研究、教育分野における奈良県立医科大学の取り組みについ

てプレゼンテーションを行いました。

協定書署名式では、奈良県 荒井知事、ベルン州 エッガーニイエンツァー首相により友好提携が締結されました。奈良県とベルン州は、環境とエネルギー、林業、情報通信技術、産業クラスター、研究と教育、観光と文化などの分野において積極的に交流と協力を展開していくこととなります。



車谷副学長によるプレゼンテーション



協定書署名式にてベルン州首相の挨拶



協定書署名式



友好交流分野会議

倫理指針の改正と医療倫理講習会の開催

4/20

今までの「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」が統合され、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が新しく作られ、平成27年4月1日施行されました。

これに伴い本学の医の倫理委員会は「医の倫理審査委員会」に改称され、委員会への申請書も新しく作成されました。（新様式は学内ホームページの研究推進課からダウンロードできます）

新しい指針の中に「研究者等は、研究の実施に先立ち、研究に関する倫理並びに当該研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研究を受けなければならない。」と受講が義務化されたことから、医療倫理講習会を4月20日（月）に開催しました。

また「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」（GCP省令）における治験責任医師等の教育・訓練も兼ねて行われました。

講師には、本学の「医の倫理審査委員会」委員長の車谷教授が

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と題して講演しました。

IRB委員会主催の講習会も5月21日と6月30日にも開催され、下半期にも講習会を開催し（時期未定）本学研究者の倫理的観点の更なる向上につなげていきたいと思っております。

※当該指針は下記 URL からダウンロードできます。

http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/kenkyu/rinri_gakunai/yosiki.htm

委員会開催月日

27年度10月から3月まで

10月19日、12月21日、2月15日 13時30分から

申請書の締め切り日は開催日の前月10日になります。

ネパール大地震における国際緊急援助隊医療チームでの派遣経験 4/28～5/11

高度救命救急センター 看護師 南田 哲平

日本時間4月25日（土）15時11分頃（現地時間25日11時56分）、ネパールのガンダキ県のラムジュン郡でM7.8の大規模な地震が発生、ネパールの75郡のうち35郡が被災し、ネパール政府からの要請を受け、日本政府は国際緊急援助隊（JDR）医療チームの派遣を決定されました。

私は一次隊のメンバーとして28日に日本を出発し、29日にカトマンズに到着し5月9日には二次隊と引き継ぎを行った後、5月11日帰国の運びとなりました。

今回派遣された日本の医療チームは基本的な診療（クリニックレベル）に加え手術、透析などの高度な医療ニーズを満たせる機能を有するチームとしての日本で初めての試みの派遣でもありました。

今回海外での初めての派遣を経験し、コミュニケーションの難しさ、また他国との協力体制の難しさを痛感したミッションになったと思

います。また、病棟の師長、主任やスタッフの方々に急な勤務変更などご迷惑をおかけしたと思いますが、色々な経験をするのができ本当に感謝しています。

また、被災の辛さを乗り越えるのには時間がかかりますが、ネパールの人たちが一刻も早く安心して過ごせるような状況になられることを強く願います。それと同時に、自分には何ができるのかということは今後も考え続けていきたいと思っています。



IMAICHO Kimono Jazzgl IN 2015が開催されました

5/9

平成27年5月9日、今井町の順明寺で今井町じゃず実行委員会主催の「Kimono Jazzgl in 2015」が開催されました。

中期計画にある「医療を基礎とするまちづくり（Medicine-Based Town：MBT）」の一環で奈良医大も本イベントに参加いたしました。

奈良医大軽音楽部「Hard Stream Orchestra」の演奏から始まり、プロの方々の演奏やパフォーマンスなども見せていただきました。その他にも奈良医大の学生団体「チームPRE ドクターズ」による、町屋カレーと題したグリーンカレーが振る舞われました。奈良医大附属病院



呼吸器内科チームからは医療相談コーナーが設けられ、地元の方々との交流がありました。当日はあいにくの雨でしたが、大変な賑わいを見せ、今井町の「心のバリアフリー」を感じることができました。

第111回日本精神神経学会学術総会 市民公開講座 「しなやかな心の世界をかたる」を開催しました

6/6

精神医学講座 講師 芳野 浩樹

6月6日大阪国際会議場において、第111回日本精神神経学会学術総会の市民公開講座「しなやかな心の世界をかたる」を奈良県・奈良県医師会などの後援をいただき開催いたしました。本体の学術総会は7000名以上の参加に湧いて活気あるものとなり、安倍首相のビデオレターが寄せられるなど、国家としてもメンタルヘルスに非常に高い関心を寄せられていることを伺わせられました。それらを反映して市民公開講座にもまた多数の一般の方々に参加いただきました。

メディアでも活躍されている立教大学教授・精神科医の香山リカ先生より「ストレスとの上手な付き合い方」と題して講演を行っていた

き、続いて作詞家としても著名で精神科医の北山修先生からは「患者さんのアートがもたらす感動について」と題して講演をいただき、盛況のうちに幕を閉じました。

近年、不登校、虐待、発達障害、うつ病、統合失調症、認知症などは、人々の健康な生活や生命に大きな影響を及ぼしています。精神を病むということは必ずしも不幸なことではなく、今回の市民公開講座を通して一般市民の皆様方が精神疾患とそれに関連するトピックについて正しく理解いただくきっかけとなれば幸いです。

大学院看護学研究科のオープンキャンパス2015を開催しました

6/13

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを6月13日に開催しました。平成25年度から開始して今年で3年目になりますが、今年も多くの方にご参加いただき、大盛況に終えることができました。

プログラムとしては、まず「看護学科長の挨拶」があり、次のプログラムからは看護学コースと助産学実践コースのコース別に分かれて進行しました。

看護学コースでは、「概要と特色」、「研究紹介」、「個別相談会」、「先輩との座談会」が行われました。「研究紹介」では、各領域の教員が、それぞれの研究について説明を行い、参加者も真剣な眼差しで説明を聞いていました。「個別相談会」では、参加者が志望する指導教員のもとで研究テーマや履修についての相談が行われました。また、「先輩との座談会」では、参加者から院生に対し、仕事と研究の両立について、入試に関することなどの質問があり、参加者からは『先輩の話聞いて不安に思っていたことを相談できてよかった』などの感想が寄せられました。

助産学実践コースでは、「概要と特色」、「個別相談会」、「先輩との座談会」、「施設見学」が行われました。「施設見学」では、主な実習先となる附属病院メディカルバースセンターを見学し、参加者からは『実際に施設を見学し、説明を聞いたことにより、助産師になりたいと強く思った』などの声が

聞かれました。「先輩との座談会」では、主に研究や実習についての質問が多く寄せられ、参加者からは『大学院での様子や実習のことなど、先輩からの話が新鮮で分かりやすかった』などの感想が寄せられました。

平成28年度の入学試験は、8月20日(二次募集：12月1日*)に実施されます。

学生募集要項(願書)やパンフレットなど大学院看護学研究科に関する資料は、本学大学院看護学研究科担当あてに請求またはお問い合わせください。※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

**【問い合わせ先】 教育支援課 看護学研究科担当 0744-22-3051
内線 2390・2401**



看護学科長挨拶



先輩との座談会

第38回まほろばPEACE緩和ケア研修会を開催して

6/13・14

緩和ケアセンター長 四宮 敏章

以下に該当する医師は平成29年6月までに全員が受講することが求められています

・ 当院に在籍する卒後2年目から5年目までの全ての医師

・ 当院に在籍する医師でがん診療においてがん患者の主治医や担当医となる医師

「がん対策推進基本計画(平成24年6月8日閣議決定)」では、重点的に取り組むべき課題である「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」に向けて、5年以内(平成29年6月まで)に、がん診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することを目標とし、特にがん診療連携拠点病院では自施設のがん診療に携わる全ての医師が緩和ケア研修を修了することを目標としています。また、「がん診療連携拠点病院等の整備について」(厚生労働省健康局長通知)においてはがん診療連携拠点病院に所属する卒後2年目から初期研修終了後3年目までの全ての医師が緩和ケア研修を修了する体制を整備することが求められています。当院においても臨床研修センターと協力して2年目の医師は受講を必須とする体制整備を行っているところです。奈良県では、平成21年度よりがん診療連携拠点病院等(県内6病院)が「まほろばPEACE緩和ケア研修会」を合計36回開催し、661名の医師が修了しています。本年度は支援病院が2病院追加され、県内8病院で開催致します。全てのプログラムを修了した医師には、修了証書が交付され、がん性疼痛緩和指導管理料、緩和ケア診療加算、緩和ケア病棟入院料、がん患者指導管理料1、がん患者指導管理料2については、本研修会を修了した医師による診療や指導が要件として求められています。

6月13日(土)14日(日)の研修会では定員を30名から50名に増員

して開催しましたが、定員オーバーとなる申し込みがあり、やむなく受講調整を致しました。2日間ぎっしり詰まったプログラムの研修会でしたが、参加者全員が修了することができました。受講されました皆様、研修会をお世話頂いたファシリテーターの先生方、本当にお疲れ様でした。

【研修会概要】

■ 参加者 研修生 医師 53名
ファシリテーター(研修協力者)のべ27名(医師16名、医師以外11名)

■ 研修プログラム

- 1日目：1) 緩和ケア概論、2) がん性疼痛の評価と治療、3) がん性疼痛事例検討、4) オピオイドを開始する時(ロールプレイ)
2日目：1) 呼吸器症状・消化器症状の評価と治療、2) 精神症状の評価と治療、3) がん治療におけるコミュニケーション(ロールプレイ)、4) 地域連携と治療・療養の場の選択

■ 研修総時間 785分



研修を終えて、全員集合(厳櫃会館)

納品検収センターを設置しました

7/1

文部科学省が定めた「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に対応し、本学での納入物品等に係る検収の徹底を図るため、7月1日から公的研究費を対象に納品検収センターを設置し、納品検収を開始しました。

今後対象となる物品等の納品に当たっては、納品検収センターを経由することになりますので、ご理解とご協力をお願いします。

【納品検収センターの概要】

- ・ 設置場所 大講堂 1階 (旧クローク)
- ・ 業務時間 9:00~17:00
(12:00~13:00 昼休憩)
- ・ 問い合わせ先 TEL: 0744-23-9974 (Fax 兼用)
E-mail: nouhinkensyuc@naramed-u.ac.jp

・ 時間外問い合わせ先

研究推進課 TEL: 0744-29-8913



検収・納品に係る手続き



オープンキャンパス2015を開催します

●医学科 8月1日(土) ●看護学科 8月2日(日)

今年も恒例のオープンキャンパスを開催します。日程は、医学科は8月1日(土)、看護学科は8月2日(日)に行います。毎年多くの方が参加され、好評をいただいております。主に受験生や高校生を対象としていますが、どなたでも参加することができます。今年も大学オリジナルバッグ・シャープペンを配布します。実施にあたっては、関係の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



- 【日時】 医学科 8月1日(土) 13:00 ~ 17:00
看護学科 8月2日(日) 13:00 ~ 17:00
- 【場所】 奈良県立医科大学 大講堂前
- 【対象】 受験生、高校生、保護者、教員、その他どなたでも参加できます。

- 【内容】 ●学長講演・看護学科長講演 ※看護学科長講演は2日のみ
- 学科紹介 ●模擬ミニ講義 ●先輩からのメッセージ
- 施設見学(※事前申込制) ●相談コーナー

メディア掲載情報をお寄せください ~学報紙面で紹介します~

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
赤羽 学 准教授 (健康政策医学)	愛媛新聞 2015年2月14日 P21「被害全容 解明が必要」 岐阜新聞 2015年2月7日 P12「被害 全容解明目指す」 千葉日報 2015年1月18日 P6「被害の全容解明目指す」 日本海新聞 2015年1月15日 P15 「研究進むカネミ油症 被害の全容解明目指す」 宮崎日日新聞 2015年1月13日 P10「研究進む「カネミ油症」」 京都新聞 2015年1月13日 P13「被害の全容解明目指す」 神戸新聞 2015年1月8日 P15「カネミ油症の全容解明へ」 北國新聞 2014年12月29日 P11「被害の全容解明を」	赤羽は厚生労働省のカネミ油症の研究班(研究代表:九州大学古江増隆先生)で研究分担者を務めている。油症研究班での研究成果で、一般対照群と油症患者群における症状を比較した記事が掲載された。
岡本 左和子 講師 (健康政策医学)	毎日新聞 2015年3月26日(木)朝刊 P25 「患者と医療者信頼育てて 大阪でシンポ」	岡本は医療従事者と患者のコミュニケーション教育と実践に関する研究を専門に行っている。このシンポジウムでの発表が記事として掲載された。
上野 聡 教授 (神経内科学)	産経新聞 朝刊 2015年4月14日 週刊新潮 2015年5月28日号 セラピスト(株式会社BABジャパン) 2015年7月7日	認知症の大きなリスク因子として、生活習慣病に関連する当教室からの知見も合わせて掲載された。「ドラえもん」がわからなくなった、大山のぶ代さんの記事と関連して、認知症のリスク因子としての生活習慣病の予防について述べている。セラピストが知っておきたい病気の知識として、認知症の正しい知識とケアが取り上げられた。奈良リハビリテーション病院でのアロマリトリートメントも紹介して補完医療の意義について掲載されている。
熊井 司 教授 (スポーツ医学講座)	朝日新聞 朝刊 2015年3月24日(火)	「医療」欄の「1分で知る豆医学」の連載で、近年、爆発的なブームになっている市民マラソンなどによるランニング障害について、スポーツ医学の専門家としてのコメントが掲載された。
大崎 茂芳 名誉教授	外務省広報 海外向け4か国語ビデオ 2015年4月1日~ 文部科学省検定済教科書 高等学校外国語科用(English Communication) 2015年4月1日~ おはよう関西 NHK 2015年5月28日	クモの糸で強度のあるヴァイオリンの弦作りに成功したことから、日本初のクモの糸による研究成果を報道している。Lesson3 Spider silk spun into violin strings ヴァイオリンの弦の素材、クモの糸による弦の作り方、柔らかな音色の源など11ページにわたって紹介されている。 柔らかくて強度があり、耐熱性で紫外線耐性があるなどクモの糸の独特な性質に関する研究成果を紹介するとともに、今後のクモの糸の実用化への展望。

平成27年度 厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました

6月20日(土)、厳樞会館3階大ホールで開催された奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、平成27年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。

今回の受賞者は、第三内科学講座の相原洋祐医員で、同窓会会長・小味渕智雄氏より、賞状と副賞の海外留学助成金が授与されました。相原医員は、平成27年8月1日～平成29年7月31日まで、アメリカ国立衛生研究所、アメリカ国立癌研究所、ヒト発癌研究所/癌研究センターで、肝疾患の多様性を様々な側面から理解することで肝疾患とレニン・アンギオテンシン系との関連性を発展させるための研究を行われる予定です。

この賞は、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会が、その目的たる母校の発展の一助とするため、海外において学術の研究、調査等に従事する者に対し、その費用の一部を海外留学助成金として支給しているものです。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、積極的なご応募をお待ちしています。



小味渕会長より、相原医員へ表彰状の授与

第22回 中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

6月17日(水)、臨床第一講義室において、第22回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。

今回の受賞者は、神経内科学の杉江和馬准教授、泌尿器科学の三宅牧人助教の二名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞研究テーマに沿って、杉江准教授が「自己貧食空胞性ミオパチーの疾患概念確立と病態解明に関する研究」、三宅助教が「膀胱癌における血管新生因子 Angiogenin の分子学的作用機序と新規治療標的分子としての可能性」と題して講演されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源

として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしています。



前列：左より杉江准教授、車谷副学長、三宅助教
 後列：左より推薦者の上野教授、藤本教授

第4回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞が授与されました

優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資することを目的として、平成23年度に創設された「奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞」については、今年度の受賞者を4月9日に開催した選考委員会で血友病治療・病態解析学講座の松本智子助教に決定しました。

6月17日に第一臨床講義棟臨床第一講義室で表彰式及び記念講演会を実施し、車谷センター長より賞状、賞金及び記念品

が授与されました。授賞式の後、松本助教から「包括的凝固機能評価法の創出と凝固異常症の病態解明」と題した記念講演が行われました。



右から小児科学野上准教授、受賞された松本助教、車谷センター長

平成27年度(第1回) 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成27年度(第1回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

年3回、各所属に応募要項を案内しますので、積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
小児科学	大学院生	古川 晶子
泌尿器科学	専修生	桑田 真臣
整形外科	診療助教	稲垣 有佐

叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。

去る、4月29日に平成27年春の受章者の発令があり元看護部長の正木幸美氏が受章されました。心からお祝い申し上げます。

◆ 瑞宝単光章 正木 幸美 氏(元看護部長)

看護功労者知事表彰

私たち3人は、5月12日に平成27年度看護功労者知事表彰を授賞させていただきました。

この日はフローレンス・ナイチンゲールの生誕日であり、厚生労働省健康政策局看護課・日本看護協会などが1991(平成3)年に制定した「看護の日」です。このような日に授賞させていただけたことは大変嬉しく、謹んでお礼申し上げます。

助産師・看護師として長きにわたり続けてこられたのは、家族の応援・上司や同僚そして後輩たちの支えがあったからこそだといつも感謝の心でいます。また、いつの時も患者さんの元気になられた姿は何事においても頑張る源になっていたと思います。

これからも、「看護のこころ」を後輩たちにつなげていけるように頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



(左から)
C棟3階集中治療部 看護師長 西浦聡子
A棟7階北病棟 看護師 林良枝
A棟5階 助産師 阿部由起子

特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して平成25年度から始まった特別共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、下記の事業が採択されました。

特別共同研究助成事業には8件の応募があり、地域健康医学岡本講師、泌尿器科藤本教授及び神経内科学形岡講師が代表研究者である共同研究が採択され、岡本講師に400万円、藤本教授、形岡講師にはそれぞれ300万円が助成されます。

また、若手研究者助成事業には10件の応募があり、今年度は全て採択され、それぞれ50万円が助成されます。

特別共同研究助成事業 採択者一覧

所属	代表研究者		研究課題名	共同研究者
	職名	氏名		
地域健康医学	講師	岡本 希	慢性感染と認知機能障害の発生リスクとの関連	地域健康医学：車谷教授、精神科：森川博士研究員、微生物感染症学：水野講師、女性研究者支援センター：須崎講師
泌尿器科学	教授	藤本 清秀	個別化医療モデルの作成を目指した泌尿器癌抗腫瘍療法抵抗性を規定する遺伝的要因と癌微小環境中免疫細胞の役割の解明	泌尿器科：穴井学内講師・三宅助教、病理病態学：小西教授・島田准教授・辰巳助教、分子病理学：國安教授・千原博士研究員
神経内科学	講師	形岡 博史	パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する前向きコホート研究	神経内科：上野教授・桐山助教、地域健康医学：佐伯講師・大林助教、産学官連携センター：刀根特任助手、眼科：宮田助教

若手研究者研究助成事業 採択者一覧

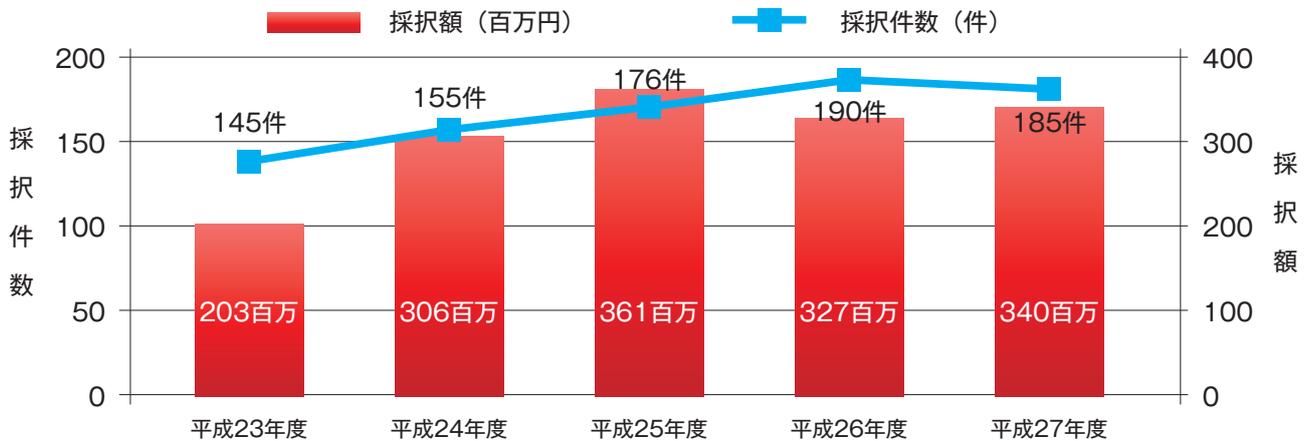
所属	職名	氏名	研究課題名
病原体・感染防御医学	講師	王寺 幸輝	In vitro 発毛システムの開発と Wnt の役割について (4元発毛システムを用いた発毛現象の解明と Wnt シグナルの役割について)
中央内視鏡・超音波部	診療助教	瓦谷 英人	腸肝相関の制御による非アルコール性脂肪肝炎ならびに肝硬変の新規治療の試み (Gut-liver axis 制御によるNASHならびに肝硬変の新規治療の試み)
精神医学	助教	深見 伸一	異所性神経細胞の精神疾患発症リスク評価とその多角的解析
解剖学第二	助教	奥田 洋明	アストロサイトにおける Hh シグナルの機能の解析 (Hh シグナルを介した神経細胞-アストロサイト間の相互作用の解析)
総合周産期母子医療センター	助教	中川 隆志	Thrombopasを用いた新生児PC制御機構の解明と新たな治療法の開発
産婦人科学	助教	吉元 千陽	近赤外線を用いた鉄測定によりチョコレート嚢胞の悪性化を早期に予測する新規検査法の確立 (MRスベクトロスコーピーを用いた鉄濃度測定による子宮内膜症発癌リスクの新たな評価法)
産婦人科学	学内講師	成瀬 勝彦	炎症惹起因子を中心とした高血圧症候群のバイオマーカーの探索 (炎症邪因子を中心とした妊娠高血圧症候群の病態解明)
生物学	助教	裏山 悟司	Wnt シグナル伝達を可能にするαカテニン転写後発現調節機構の解明
微生物感染症学	非常勤講師	中野 章代	超高齢社会における感染症の実態調査と生体内での体制獲得機構の解明
看護学科公衆衛生看護学	助教	小松 雅代	医療依存度の高い難病患者のレスパイト体制整備に関する研究

平成27年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

平成27年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（文部科学省、独立行政法人日本学術振興会））が決定しました。

平成27年5月1日現在の状況は表のとおりです。

	採択件数（件）	採択額（千円）	直接経費	間接経費
平成27年度	185	340,304	262,184	78,120
平成26年度	190	327,390		
平成25年度	176	361,350		
平成24年度	155	306,150		
平成23年度	145	286,820		



平成27年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

事業名	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究（研究領域提案型）	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	成体神経新生を利用した障害脳神経回路の機能的再建	27～28
新学術領域研究（研究領域提案型）	第二生理学	教授	堀江 恭二	発現のオンとオフを繰り返す少数分子によるES細胞の多能性の制御	26～27
基盤研究（B）	整形外科	研究員	高木 都	刺激に応答して光る腸管神経の再生・新生機構の解明と制御の新たな展開	27～29
基盤研究（B）	第一解剖学	教授	西 真弓	母子分離記憶の痕跡の可視化と成体での再活性化による想起	27～29
基盤研究（B）	地域健康医学	助教	大林 賢史	光曝露がサーカディアンリズム関連疾患に及ぼす影響に関する縦断研究	27～30
基盤研究（B）	地域健康医学	教授	車谷 典男	青年・壮年・中年期の光曝露が生体リズムと睡眠の質に及ぼす影響に関する疫学研究	27～30
基盤研究（B）	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	神経系腫瘍幹細胞を標的とした重粒子線と抗 VEGF 抗体併用の有効性	27～29
基盤研究（B）	化学	教授	酒井 宏水	人工赤血球の酸素運搬機能時間を体内電子供与系の活用により飛躍的に延長させる	25～27
基盤研究（B）	皮膚科学	研究員	大崎 茂芳	合成繊維集合体の高強度化への革新的アプローチ	25～27
基盤研究（B）	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	嗅覚における匂い経験依存的な神経回路再編の分子機構	25～27
基盤研究（B）	第一内科学	教授	斎藤 能彦	肺高血圧—右心不全発症における新規 TMEM100 遺伝子の病態生理的意義の解明	25～27
基盤研究（B）	小児科学	教授	嶋 緑倫	自己細胞移植による次世代型血友病 A 治療の創出	25～27
基盤研究（B）	消化器・総合外科学	講師	山田 高嗣	臓器再生・移植医療を目指した iPS 腸管を用いた機能的膵臓の臓器分化誘導法の開発	25～27
基盤研究（B）	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	iPS 腸管作製技術を応用した難治性腸疾患に対する新たな腸管再生・移植医療への挑戦	25～27
基盤研究（B）	第二解剖学	教授	和中 明生	淡蒼球アストロサイトの形態機能関連—パーキンソン病の新しい治療法開発にむけて—	26～28
基盤研究（B）	病理病態学	教授	小西 登	ヒト前立腺癌始原細胞を用いた腫瘍進展メカニズムの解析と新規分子標的治療への応用	26～28
基盤研究（B）	産婦人科学	教授	小林 浩	胎児期子宮内膜症発生説の実証と癌化機序の解明	26～28
基盤研究（C）	整形外科	講師	城戸 顕	筋再生の分子機構を指標とした骨転移患者に対する安全で効果的なりハビリテーション	27～29
基盤研究（C）	哲学	講師	池辺 寧	医学哲学を構築するための基礎づけとなるハイデガーの行為概念についての研究	27～29
基盤研究（C）	第一解剖学	学内講師	東 超	幼年期のストレスによる記憶・学習障害と亜鉛の抗酸化作用に関する研究	27～29
基盤研究（C）	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	新生嗅球介在ニューロンによる嗅覚行動の制御機構の解析	27～29
基盤研究（C）	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	光遺伝学を用いたアストロサイト機能改変—基底核回路の人為的制御の実現に向けて	27～29
基盤研究（C）	第三内科学	助教	浪崎 正	原発性肝細胞癌に対する薬物動態に基づく新規治療法および新規バイオマーカーの開発	27～29
基盤研究（C）	眼科学	講師	上田 哲生	白内障重症度が非視覚的光感受性に及ぼす影響：1100名の高齢者調査	27～29

基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子 (下嶋 典子)	HLA-F による新規腫瘍病診断法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	健康政策医学	准教授	赤羽 学	超高齢社会における社会政策のための医療・介護サービス需要の高精度推計	27 ~ 29
基盤研究 (C)	地域健康医学	講師	岡本 希	地域在住高齢者における歯周病と認知機能障害発生のリスクとの関連	27 ~ 29
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	岡山 悟志	循環器疾患患者の終末期医療に関する意思決定を支援する体制を構築するための研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	中央臨床検査部	講師	水野 麗子	三次元右室分割モデルを用いた三次元的右室部位別心機能評価のための新手法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	第二内科学	講師	友田 恒一	肺の気腫化と線維化はなぜ均等に起こらないのか? : 力学的異方性からのアプローチ	27 ~ 29
基盤研究 (C)	神経内科学	講師	形岡 博史	パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する大規模調査	27 ~ 29
基盤研究 (C)	免疫学	講師	北畠 正大	脱リン酸化調節分子 G5PR による自己抗体産生細胞の分化制御機構の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	感染症センター	准教授	笠原 敬	黄色ブドウ球菌菌血症の疫学の変遷と最適な治療法の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	血栓制御医学講座	講師	松井 英人	ウイルスベクターを使用しない安全な血友病遺伝子・細胞治療法の確立	27 ~ 29
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	野上 恵嗣	凝固第Ⅷ因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬の応用に関する基礎的研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	地域医療学講座	特任助教	矢田 弘史	インヒビター保有軽症血友病 A の凝血学的特性と新規治療戦略に関する基礎的研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	皮膚科学	学内講師	宮川 史	核成分に対する免疫寛容の破綻から SLE 発症に至る機序の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	精神医学	准教授	安野 史彦	脳梗塞患者でのアルツハイマー型認知症の発症リスクに関する PET アミロイド画像研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	放射線医学	講師	田中 利洋	膀胱 IVR 治療における新規デバイスと治療法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	放射線医学	教授	吉川 公彦	下肢閉塞性動脈硬化症に対する新規生体吸収型バイオスタントの開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	庄 雅之	難治性消化器癌に対する新たな集学的免疫治療戦略の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	若月 幸平	フィブリノーゲンによる癌の転移メカニズムの解明と新規癌治療への応用	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	研究員	植田 剛	多能性幹細胞からの誘導腸管を用いた、生体内長期培養による腸管移植への試み	27 ~ 29
基盤研究 (C)	中央内視鏡・超音波部	准教授	小山 文一	抗酸化作用を強化した十全大補湯を用いて放射性腸炎を予防する	27 ~ 29
基盤研究 (C)	整形外科	教授	田中 康仁	重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた新規再生医療技術の開発	27 ~ 30
基盤研究 (C)	整形外科	講師	朴木 寛弥	Translational applications of broad spectrum natural compounds and phytochemicals or their derivatives to the novel treatment strategy against sarcomas	27 ~ 30
基盤研究 (C)	麻酔科学	研究員	内藤 祐介	呼吸停止時の人工赤血球の有用性の検討	27 ~ 30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	分子生物学プロファイリングによる膀胱上皮内癌治療効果と予後予測マーカーの探索	27 ~ 29
基盤研究 (C)	総合産科期母子医療センター (MFICU)	助教	赤坂 珠理晃	妊娠高血圧症候群の病態悪化に関わる脂肪組織の影響～新規培養法を用いた証明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	岡本 英之	頭頸部癌におけるバイオマーカーとしての REG 遺伝子の作用機序の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	眼科学	教授	緒方 奈保子	高齢者の視機能が QOL に及ぼす影響と加齢黄斑変性の病態解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	総合医療学	教授	西尾 健治	肝臓・腎臓における各種炎症病態形成への ADAMTS13 の関与	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	研究員	杉浦 勉	即時荷重インプラントの骨界面における荷重伝達とオーバーロードの閾値の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔癌細胞における酸素中子捕捉療法による転移・浸潤能の抑制効果の検討	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	准教授	山本 一彦	長鎖 non-codingRNA の制御を介した新たな口腔癌治療戦略	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	顔面の形態形成を制御する新規シグナルネットワークの解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	看護学科 基礎看護学	講師	升田 茂章	限局性前立腺がん患者と家族の治療選択を支える外来看護ケアガイドラインの開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	分子病理学	研究員	藤井 澄	ヒストンリジン残基修飾による新たなエピジェネティクス研究	24 ~ 27
基盤研究 (C)	栄養管理部	准教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肺疾患に対する新規栄養療法開発：進行抑制から発症予防までをめざして	24 ~ 27
基盤研究 (C)	整形外科	研究員	藤間 保晶	骨腫瘍に対する患肢温存を目的とした細胞活性を有した液体窒素処理骨移植法の開発	24 ~ 27
基盤研究 (C)	看護学科 成人看護学	講師	石橋 千夏	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育プログラムの検討	24 ~ 28
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	講師	吉原 誠一	新生嗅球介在ニューロンの神経回路再編機構の解明	25 ~ 27
基盤研究 (C)	第三内科学	研究員	浅田 潔	ピロリ菌感染により幹細胞レベルで誘発されるメチル化の同定	25 ~ 27
基盤研究 (C)	循環器システム医科学	助教	坂部 正英	心臓形態形成を制御する新規シグナル伝達ネットワークの解明とその意義	25 ~ 27
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	准教授	中村 ふくみ	トキソカラ症の実態解明～多彩な臨床像とその病態に関連する諸因子の基礎的検討～	25 ~ 27
基盤研究 (C)	中央手術部	准教授	田中 優	周術期医療のクオリティ・インディケーターとしての麻酔満足度尺度の開発	25 ~ 27
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	准教授	玉本 哲郎	がん放射線治療の均質化のためのモバイル遠隔教育システムの構築	25 ~ 27
基盤研究 (C)	法医学	教授	羽竹 勝彦	慢性アルコール投与ラットにおける血管反応性—アルコール誘発性突然死の観点から—	25 ~ 27
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	竹田 征治	可溶性 Flt-1 の CKD 関連心不全における役割と肺水腫発症抑制効果の検討	25 ~ 27
基盤研究 (C)	病理病態学	非常勤講師	中谷 公彦	糸球体腎炎に対する可溶性 α-Klotho 蛋白の新規治療薬としての有用性の検討	25 ~ 27
基盤研究 (C)	神経内科学	准教授	杉江 和馬	自己食空間性ミオパチーにおけるオートファジー分子機構の病態関与の解明	25 ~ 27
基盤研究 (C)	産学官連携推進センター	特任助手	刀根 庸浩	アイレベルで測定した夜間照度・短波長暴露がメラトニン分泌および疾病に及ぼす影響	25 ~ 27
基盤研究 (C)	輸血部	教授	松本 雅則	造血幹細胞移植後の致死性疾患である血栓性微小血管障害症の新規診断法と治療法の開発	25 ~ 27
基盤研究 (C)	血友病治療・病態解析学講座	助教	松本 智子	後天性凝固異常症における凝固機能評価と抑制メカニズムの解明	25 ~ 27
基盤研究 (C)	精神医学	講師	芳野 浩樹	社会経験依存的に発達する前頭前野の興奮性神経回路は治療の手がかりとなるか	25 ~ 27
基盤研究 (C)	法医学	非常勤講師	石谷 昭子	HLA-G の発現とその遺伝子型の移植片生着への影響について—急増する報告の検証—	25 ~ 27

平成27年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	コラーゲンゲル内での三次元培養による ES 細胞から心筋細胞への効率的な分化誘導	25 ~ 27
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	中川 一郎	Ischemic Postconditioning に関する電気生理学的検討	25 ~ 27
基盤研究 (C)	整形外科	研究員	村田 景一	再生医療技術を応用した血管付き人工骨による四肢関節の治療に関する研究	25 ~ 27
基盤研究 (C)	麻酔科学	学内講師	林 浩伸	心臓血管手術におけるレーザースペックル法による眼血流測定と術後視機能障害の検討	25 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	春田 祥治	内服可能な大豆タンパクペプチドによる卵巣がん分子標的抗腫瘍薬の開発	25 ~ 27
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	吉田 昭三	卵巣明細胞癌の細胞周期チェックポイント機構修飾による新規治療法の解明	25 ~ 27
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	耳鳴発生の分子機構の解明と新規治療法の模索	25 ~ 27
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	山中 敏彰	平衡リハビリテーションにおける感覚代行技術の実用化に向けた基礎研究	25 ~ 27
基盤研究 (C)	看護学 成人看護学	教授	石澤 美保子	クリティカルケア領域における皮膚障害の予防および発生後ケアのためのプログラム開発	25 ~ 27
基盤研究 (C)	看護学 公衆衛生看護学	准教授	入江 安子	妊婦の心理・社会環境要因と産後うつ、子どもの発達の問題との関連 コホート研究	25 ~ 29
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	研究員	大西 武雄	宇宙放射線組成線種・重粒子線による DNA 損傷とその修復機構	25 ~ 27
基盤研究 (C)	第二内科学	学内講師	山内 基雄	OSAS の多様性に対応した個別化治療の構築—薬物療法の可能性の探索—	25 ~ 27
基盤研究 (C)	動物実験施設	准教授	久保 薫	シンバイオティクスによる慢性関節リウマチの予防・治療に関する研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	保健体育	准教授	石指 宏通	運動強度・時間・脱水量と血栓形成発生機序の関連性およびそれに及ぼす老化の影響	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	垂直眼球運動系の神経積分器における持続的活動の生成機序	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第一生理学	講師	豊田 ふみよ	イモリ性フェロモン情報処理機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	薬理学	教授	吉栖 正典	伸展負荷による血管平滑筋細胞死の分子機構の解明と全く新しい大動脈解離予防薬の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	分子病理学	研究員	大森 齊	脂肪酸シグナルを標的とする癌幹細胞ターゲティングの検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	病理病態学	准教授	島田 啓司	尿路上皮癌における新規癌進展メカニズムの解析	26 ~ 28
基盤研究 (C)	健康政策医学	学内講師	岡本 左和子	患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第三内科学	教授	吉治 仁志	肝前駆細胞と既存薬剤を用いた肝疾患進展抑制治療法の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第三内科学	助教	野口 隆一	NASH の発症進展に関わる生活習慣病態と凝固線溶系を標的とした新規治療の確立	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	尾上 健児	メッセンジャー RNA 投与による新たな心筋症治療法の開発と評価	26 ~ 28
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	小澤 健太郎	パーキンソン病の関連タンパク質に対する酸化修飾のパーキンソン病発症における役割	26 ~ 29
基盤研究 (C)	小児科学	助教	武山 雅博	APC 及び PS による第 VIII 因子制御機構の解明及び新規血友病 A 治療薬の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	小児科学	助教	志田 泰明	血管内皮細胞による血流応答機構の解明および新規血栓止血制御戦略の構築	26 ~ 28
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター (NICU)	教授	高橋 幸博	低酸素性虚血性脳症に対する新規トロンボモジュリンによる脳保護作用の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	ウイルス由来クモカイン受容体に着目した DIHS における HHV6 再活性化機序の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	放射線医学	助教	西尾福 英之	MRI 分子画像を用いたナノ DDS による体内動態の解明から治療効果早期診断への応用	26 ~ 28
基盤研究 (C)	放射線医学	非常勤講師	阪口 浩	進行肝細胞癌に対する薬剤溶出性ビーズを用いた新規肝動脈塞栓術の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	救急医学	非常勤講師	藤岡 政行	クモ膜下出血後の避発性脳虚血に対する ADAMTS13 の新規脳保護機能の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	悪性神経腫瘍に対する抗てんかん薬を中心とする新規併用療法の開発と臨床応用	26 ~ 28
基盤研究 (C)	整形外科	准教授	面川 庄平	骨形成細胞シートを併用した骨延長術の有用性に関する実験的研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	麻酔科学	講師	瓦口 至孝	全身麻酔薬が糖尿病環境下にある癌細胞の増殖能に与える影響	26 ~ 28
基盤研究 (C)	麻酔科学	教授	川口 昌彦	非眼科的手術後の眼合併症の発生状況とその誘因に関する検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	分子病理学	研究員	千原 良友	膀胱内環境に生じるがん幹細胞シグナル異常の解明と膀胱癌診断マーカーの開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	病理病態学	助教	藤井 智美	ヒト前立腺癌に発現する特異性の高い microRNA の有用性についての検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	棚瀬 康仁	癌幹細胞マーカー CD44v9 を標的とした難治性卵巣がんの治療戦略	26 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	研究員	古川 直人	卵巣明細胞癌に対する新たな転写因子・セリンプロテアーゼ系マーカーの有用性	26 ~ 28
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	西村 忠己	軟骨伝導補聴器の音伝導効率の向上に関する研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	太田 一郎	頭頸部癌における糖代謝異常と EMT シグナル活性化に伴う癌浸潤・転移機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	集中治療部	准教授	井上 聡己	脳蘇生におけるアミオダロンの脳保護効果に関する研究	26 ~ 29
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	笹平 智則	新規口腔癌関連遺伝子による新たな血管・リンパ管新生機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	口腔外科学	研究員	村上 和宏	即時・早期荷重インプラントの骨結合獲得のための微小動揺の閾値と荷重開始時期の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	口腔外科学	研究員	梶原 淳久	BRCA2 の DSB を介した温熱誘導細胞死における修復経路の選択機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	生物学	研究員	荒木 正介	網膜再生の両生類モデルを用いた幹細胞性の維持と細胞分化の機構	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	成体神経新生を利用した脳血管障害の新規治療法の創出	27 ~ 28
挑戦的萌芽研究	第二解剖学	教授	和中 明生	グリア主導で神経回路活動は変更できるか？—三つ組みシナプス仮説の実証—	27 ~ 29
挑戦的萌芽研究	精神医学	学内講師	牧之段 学	社会的経験依存性前頭前野ミエリン形成と同部位シナプス形成との相関についての検証	27 ~ 29
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	教授	小林 浩	卵巣癌転移抑制効果を発揮するバンドエイト型短鎖ペプチドの試作と実証実験	27 ~ 28
挑戦的萌芽研究	看護学 精神看護学	助教	奥田 淳	医療観察法に基づく地域処遇者の訪問看護に携わる看護師への支援方策の構築	27 ~ 29
挑戦的萌芽研究	臨床英語	准教授	吉田 泰彦	Charles Lamb のロマン主義作家としての位置付けを見直しする	25 ~ 27
挑戦的萌芽研究	化学	准教授	山本 恵三	立体構造情報に基づいた CTX-M 型 β -ラクタマーゼの基質特異性拡張機構の解明	25 ~ 27
挑戦的萌芽研究	県民健康増進支援センター	特任講師	富岡 公子	化学物質取扱い労働者の複合曝露による発癌リスクに関する歴史的コホート研究	25 ~ 27

挑戦的萌芽研究	組換え DNA 実験施設	准教授	杉浦 重樹	損傷のタイプに応じて修復を亢進させる損傷特異的人工エンドヌクレアーゼの開発	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	RI 実験施設	准教授	森 俊雄	色素性乾皮症 A 群患者における進行性神経障害の機構解析	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	第一解剖学	教授	西 真弓	長残光蛍光体ナノ粒子を用いた癌細胞の無励起光型バイオイメージング	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	整形外科学	研究員	高木 都	軽度な脊髄損傷の新規薬物治療法の開発	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	第一解剖学	講師	秦野 修	ステロイドホルモンの質量分析イメージングによる組織細胞上の直接可視化法の開発	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	研究員	岩井 加奈	新規蛍光プローブの化学的ナビゲーションを応用した子宮頸癌円錐切除範囲の決定	26 ~ 27
挑戦的萌芽研究	形成外科	准教授	桑原 理充	コラーゲン線維の配向性を考慮した科学的皮膚移植術への挑戦	26 ~ 27
若手研究 (B)	産学官連携推進センター	助教	遊佐 敏彦	過疎地域における地域包括ケアのための多職種連携と見守りシステム構築に関する研究	27 ~ 28
若手研究 (B)	第一内科学	研究員	中川 仁	ANP 系のミネラルコルチコイド受容体を介する交感神経系抑制機序の解明	27 ~ 29
若手研究 (B)	第二内科学	研究員	太田 浩世	睡眠時無呼吸症候群によるインスリン抵抗性の分子機構の解明	27 ~ 28
若手研究 (B)	第一内科学	助教	松井 勝	PIGF を用いた慢性腎臓病における心血管病、腎障害進展の新規予測法と治療法の確立	27 ~ 29
若手研究 (B)	精神医学	助教	紀本 創兵	社会経験依存性に発達する前頭前野の分子基盤の解明	27 ~ 28
若手研究 (B)	精神医学	助教	井川 大輔	自閉症マウスにおけるミクログリア機能の多角的解析	27 ~ 28
若手研究 (B)	放射線腫瘍医学	助教	森本 将裕	頭頸部癌放射線療法後の有害事象の体系化：正常組織障害予測モデルを用いて	27 ~ 29
若手研究 (B)	中央放射線部	主査(技師)	藤谷 信将	寡分割大線量照射における Linear-Quadratic モデルの検討	27 ~ 28
若手研究 (B)	消化器・総合外科学	研究員	木下 正一	ヒト痔瘻における CD200 発現の臨床病理学的意義解明と新規標的治療の開発	27 ~ 28
若手研究 (B)	消化器・総合外科学	研究員	西和田 敏	痔瘻における Nectin Family 制御による新規癌治療法の開発	27 ~ 28
若手研究 (B)	中央手術部	助教	新城 武明	NMBAs の中枢神経への影響の解析	27 ~ 28
若手研究 (B)	眼科学	助教	西 智	着色眼内レンズがサーカディアンリズムに及ぼす影響に関する無作為比較試験	27 ~ 29
若手研究 (B)	眼科学	助教	吉川 匡宣	CIHHV-6 感染者におけるぶどう膜炎発生の割合とその特徴について	27 ~ 28
若手研究 (B)	法医学	助教	粕田 承吾	急性アルコール中毒時の敗血症増悪機構の解明	27 ~ 28
若手研究 (B)	口腔外科学	研究員	上田 順宏	下顎骨再建手術シミュレーションシステムの開発	27 ~ 29
若手研究 (B)	第一解剖学	助教	堀井 諱子	視床下部新規領域テルタエリアー辺縁系神経回路による情動調節機構の解明	27 ~ 28
若手研究 (B)	口腔外科学	助教	柳生 貴裕	乳歯歯髄由来細胞による唇顎口蓋裂患者の顎裂治療	24 ~ 27
若手研究 (B)	地域健康医学	講師	佐伯 圭吾	皮膚温 DPG のサーカディアンリズムと血圧・糖脂質代謝・睡眠に関する大規模疫学研究	25 ~ 27
若手研究 (B)	精神医学	助教	太田 豊作	近赤外線スペクトロスコピィを用いた統合失調症発症予測因子の検討	25 ~ 27
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	研究員	岡安 唯	モルモットを用いた骨導超音波聴覚の知覚メカニズムと音響負荷の影響についての研究	25 ~ 27
若手研究 (B)	口腔外科学	助教	堀田 聡	即時荷重インプラントにおいて骨結合を阻害する微小動揺の閾値の解明	25 ~ 27
若手研究 (B)	口腔外科学	助教	山川 延宏	口腔がんにおける酸素中性子捕捉療法後の細胞死メカニズムの解明	25 ~ 27
若手研究 (B)	看護学科 公衆衛生看護学	助教	前屋敷 明江	食品と花粉飛散量の組み合わせによるアレルギー症状の増強因子に関する研究	26 ~ 28
若手研究 (B)	化学	助教	松平 崇	配置を精密に制御した高分子量ヘモグロビン集合体(人工酸素運搬体)の創製	26 ~ 28
若手研究 (B)	物理学	講師	高木 拓明	細胞運動のゆらぎから探るロバストな細胞情報処理機構	26 ~ 28
若手研究 (B)	第二解剖学	助教	森田 晶子	生体恒常性維持のための感知系脳室周囲器官における血管リモデリングメカニズム	26 ~ 27
若手研究 (B)	薬理学	助教	京谷 陽司	睡眠時無呼吸患者における心血管病発症・進展メカニズムの解明	26 ~ 27
若手研究 (B)	健康政策医学	講師	野田 龍也	インターネット依存症：日本におけるスクリーニングテストの開発	26 ~ 28
若手研究 (B)	第三内科学	助教	北出 光輝	NOTCH1 選択的阻害による新たな肝再生療法の可能性	26 ~ 28
若手研究 (B)	精神医学	助教	鳥塚 通弘	iPS 細胞を用いた培養系・移植実験による統合失調症の神経細胞病態解明	26 ~ 27
若手研究 (B)	消化器・総合外科学	研究員	右田 和寛	ユビキチン修飾系を標的とした新たな癌治療法の臨床導入を目的とした研究	26 ~ 27
若手研究 (B)	腫瘍センター	研究員	安田 里司	獲得免疫による再発予防を目指した T 細胞不活化制御による新規集学的治療戦略の開発	26 ~ 27
若手研究 (B)	脳神経外科学	助教	松田 良介	超免疫不全マウスを用いた膠芽腫に対する免疫細胞化学療法の開発	26 ~ 27
若手研究 (B)	整形外科学	助教	清水 隆昌	広範囲骨欠損に対する骨形成細胞シートと血管束移植を用いた新規骨再建法確立の試み	26 ~ 28
若手研究 (B)	麻酔科学	助教	西和田 忠	ミノサイクリンが発達段階の脳における全身麻酔薬の神経毒性を抑制できるか？	26 ~ 28
若手研究 (B)	分子病理学	助教	羅 奕	膀胱癌における新規抗腫瘍療法：抗酸化ストレスとメチル化阻害剤による抗腫瘍効果の検討	26 ~ 27
若手研究 (B)	泌尿器科学	研究員	井上 剛志	がん幹細胞と上皮間葉転換による膀胱上皮内癌の BCG 療法抵抗性の解明	26 ~ 27
若手研究 (B)	泌尿器科学	助教	三宅 牧人	膀胱癌微小環境中の CXCL1 発現と尿中 Exosome 内 CXCL1 検出の臨床応用	26 ~ 27
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	骨導超音波を用いた新しい耳鳴マスカー療法法の検討	26 ~ 28
若手研究 (B)	口腔外科学	研究員	前田 雅彦	ラット下顎骨顎裂モデルを用いた骨芽細胞シートの顎骨再生に関する基礎的研究	26 ~ 28
若手研究 (B)	口腔外科学	研究員	栗原 都	MIA gene family シグナルによる口腔癌の診断・治療の新展開	26 ~ 27
若手研究 (B)	看護学科 成人看護学	助教	佐竹 陽子	救急領域における終末期ケアに対する看護師の態度とその実践に関する研究	26 ~ 27
若手研究 (B)	微生物感染症学	講師	中野 竜一	臨床および家畜における薬剤耐性菌の実態解明とその関連性の解明	26 ~ 28
研究活動スタート支援	整形外科学	助教	内原 好信	骨腫瘍切除後の広範囲骨欠損に対する再生医療技術を用いた再建技術の開発	26 ~ 27
研究活動スタート支援	口腔外科学	研究員	松末 友美子	幼少期の咀嚼が成長後の脳発達や行動に及ぼす影響について	26 ~ 27
奨励研究	医療技術センター	言語聴覚士	斎藤 修	幼児聴力検査の検査音に親の呼びかけ声を用いた検討	27
奨励研究	第一内科学	社会人学生	守川 義信	収縮性の保持された心不全と血管内皮機能の関連性についての検討	27
特別研究員奨励費	第一解剖学	(特別研究員)	笹川 誉世	幼少期ストレスによる食物嗜好性神経回路の可塑的変化の解明	26 ~ 28



編集後記

- 岸本 年史 (精神医学)
 - 藤本 雅文 (物理学)
 - 京谷 陽司 (薬理学)
 - 藤本 正男 (内科学第三)
 - 山名香奈美 (母性看護学)
 - 西 幸江 (看護部)
 - 藤谷 威行 (研究推進課)
 - 鷲見 正人 (教育支援課)
 - 廣田 雅彦 (病院管理課)
 - 森田 英之 (総務課・広報室)
 - 阪田 聖基 (総務課・広報室)
- (○印は編集委員長)

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.narmed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)